

科学研究費助成事業（基盤研究（S））研究進捗評価

課題番号	22222002	研究期間	平成22年度～平成26年度
研究課題名	アナトリアに於ける先史時代の『文化編年の構築』	研究代表者 (所属・職) (平成27年3月現在)	大村 幸弘 (財)中近東文化センター・アナトリア考古学研究所・所長

【平成25年度 研究進捗評価結果】

評価	評価基準
A+	当初目標を超える研究の進展があり、期待以上の成果が見込まれる
A	当初目標に向けて順調に研究が進展しており、期待どおりの成果が見込まれる
○ A-	当初目標に向けて概ね順調に研究が進展しており、一定の成果が見込まれるが、一部に遅れ等が認められるため、今後努力が必要である
B	当初目標に対して研究が遅れており、今後一層の努力が必要である
C	当初目標より研究が遅れ、研究成果が見込まれないため、研究経費の減額又は研究の中止が適当である
(意見等)	
<p>本研究は、カマン・カレホユック遺跡の発掘調査を通して、アナトリアの先史時代における文化編年の構築を行うことを目的とするものである。発掘調査の結果、(1) アッシリア商人の経済活動はすでにIV a層にみられること、(2) IV a層出土の土器にみられる轆轤技術がアッシリア商人によって持ち込まれたことが想定できること、(3) 出土炭化物の炭素年代測定により前23世紀から前20世紀というこの層の年代が明確になったこと、(4) 前2千年紀初頭に鉄生産の可能性があるという新知見を得るなど、順調に成果を積み重ねていると判断できる。しかし、1千万点を超える出土遺物の整理と資料の実測作業、遺構の断面図の作成などはいずれも困難を伴うもので、現地作業員の養成とあいまって、今後より一層の努力が求められる。</p>	

【平成27年度 検証結果】

検証結果	当初目標に対し、期待どおりの成果があった。
A-	<p>テーマである「文化編年」の構築という作業は、困難な環境の中での作業であることから、そう簡単に成し遂げられるものではないが、緻密な作業に基づいて行なわれてきており、ここまで継続してきたことについては大いに評価したい。</p> <p>研究成果報告書によれば、一応の成果はあったものと見受けられるが、多くの困難な作業が伴ったと考えられるため、研究を進展させるためのより一層の努力と、新たな研究成果の発信に努めるべきであった。今後は、研究対象が特殊なだけに、研究の意義とその継承をもっと広く伝える努力が求められる。また、資金切れと人員不足によって研究が行き詰まらないように工夫することが望まれる。</p>